

A. 第三者評価結果（「機関評価」の部分）

評価スケール	自己評価	機関評価	評価スケール	自己評価	機関評価	評価スケール	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.1	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.2	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	A	A	6.2.3	A	A
1.2.1	A	A	2.3.8	A	A	6.2.4	非	非
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A
1.3.1	A	A	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A
1.4.1	A	A	2.4.2	A	A	6.2.9	A	A
1.4.2	A	A	2.4.3	A	A	6.3.1	A	A
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	A	A
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	A	A
1.4.5	A	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.1	B	B	7.1.2	A	A
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A
1.4.8	A	A	3.1.3	A	A	7.3.1	A	A
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A
1.5.2	A	A	3.1.5	A	非	7.3.3	A	A
1.5.3	A	A	3.1.6	A	A	7.3.4	A	A
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	A	A
2.1.2	A	A	4.1.1	A	A	7.4.2	A	A
2.2.1	A	A	4.1.2	A	A	7.4.3	A	A
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	A	A
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A
2.2.5	A	A	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A
2.2.6	A	A	5.1.1	A	A	7.5.3	A	A
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	A
2.2.8	A	A	5.2.1	A	A	7.5.5	A	A
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	A	A
2.2.10	A	A	5.2.3	A	A	7.5.7	A	A
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A
2.3.2	B	B	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A
2.3.3	A	A	6.1.2	A	A			

B. 評価機関の所見

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール番号	内 容
1-2-1	毎月、予算に対する実績を各部門で出して管理しています。予実管理を行うことで、より迅速に改善が図れています。半期の振り返りでは昨年度の同時期と比較すると増収しており、結果の分析も行っています。入居募集の方法を改善し入居率がアップしたこと、また、運営懇談会にて、入居者から決算報告から、食堂部分が決算で良くない結果がでていると指摘があり、これまでメニューは自由におとりいただけるように設置のみだったとこ

	ろ、各戸配布に切り替えた結果、利用率が上がり収入面での改善につながりました。現状を分析しながら必要な改善を実践していることで、安定した経営を展開するよう取り組んでいます。
1-4-5	毎年1回、自己申告書の提出にて職員の意向を確認しています。退職の予定、研修の希望など意向把握のほか、「仕事に対する評価」として、難しさ、仕事量、適正、能力となった、健康面、総合評価を記載する項目があり、自分自身の振り返りも行うことができる書式となっています。振り返りを通して次年度に向けて自分の意向を表明することは双方にとって客観的に現状を捉える良い機会となっています。
2-3-3 2-3-4	接遇、虐待防止、コンプライアンス、事故ゼロ等など各種委員会活動は職員が主体的に取り組んでいます。法人全体でサービスの質向上に向けた取り組みとして、毎年「職員実践研究発表会」という研究発表を実施しています。普段の取り組みを研究発表という形でまとめていることは、日々の入居者への働きかけがどうなのか検証するにも役立つ取り組みと推察されます。当ホームは入居時自立という条件での契約であることが背景にあることから、入居者から、認知症になった時の介護が心配との声があり、ホームでは、説明会を実施しました。共用介護室の使用方法から、施設で行う介護についてパワーポイントを使用して1時間ほどかけて説明しています。入居者の参加は46名ほどで、関心の高さが窺えます。入居者の声に耳を手向け、真摯に応えていこうとするホームの誠実さが感じられます。
4-2-2	各種行事は年間を通して企画、実施されています。元気な入居者の方々に多く参加いただけるよう、参加しやすさを考えて今年度は企画しています。外出企画を月1回実施し、プラネタリウム見学、ボーリング、ウォーキング企画、あべのハルカスへの外出など様々です。ホーム企画の行事については、入居者から参加の有無を取るようになっています。実施後に振り返りを行う時に人気がある企画であったかも検証でき、翌年の参考になる取り組みと言えます。また、「バレンタイン」の企画で、入居者からメッセージカードを集めていました。チョコレートと一緒にそのメッセージカードを渡す内容で、入居者同士が交流を持つきっかけ作りになるようにとの意図があります。ホームでの生活を入居者同士が交流を深めていくことで、より充実した日々となるよう取り組んでいます。
5-1-1	「食」を通して入居者や職員が交流を図る機会を設けています。誕生月に、誕生会を行っており、その月に誕生日を迎える入居者と職員も一緒にお祝いをする会としています。厨房スタッフが目の前で作った、揚げたての天ぷらを入居者と一緒に職員もいただき、和やかな会であることが想像できます。この時は、ダイルームを使用している入居者の方も、可能であれば、一緒にいただくことにしています。なかなか、移動して一緒に食べるできない入居者の方々には、ダイルーム内で、ホットプレートを使用して、目の前でステーキを焼いて提供しました。ステーキを焼く匂いも楽しめ、入居者の笑顔がこぼれていました。夏は流しそうめんを行うなど、ケアが必要な方にも「食」に関する行事を企画し、楽しんでいただけるよう取り組んでいます。

2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケール番号	内 容
2-4-2	業務マニュアルは毎年4月1日付けで見直したマニュアルを差し替えています。日々、マニュアルで示された内容に従って統一感ある業務を行えるよう取り組んでいることが、毎年見直しを行っていることからもうかがえます。しかしながら、見直しして改定となった部分がどこなのかが、マニュアルをみただけでは判明できない状態にあります。全体を差し替えているため、せつかくの変更点が特定しにくくなっています。変更点こそ、全体で共有する必要のある箇所なので、確認しやすいよう工夫することが期待されます。